

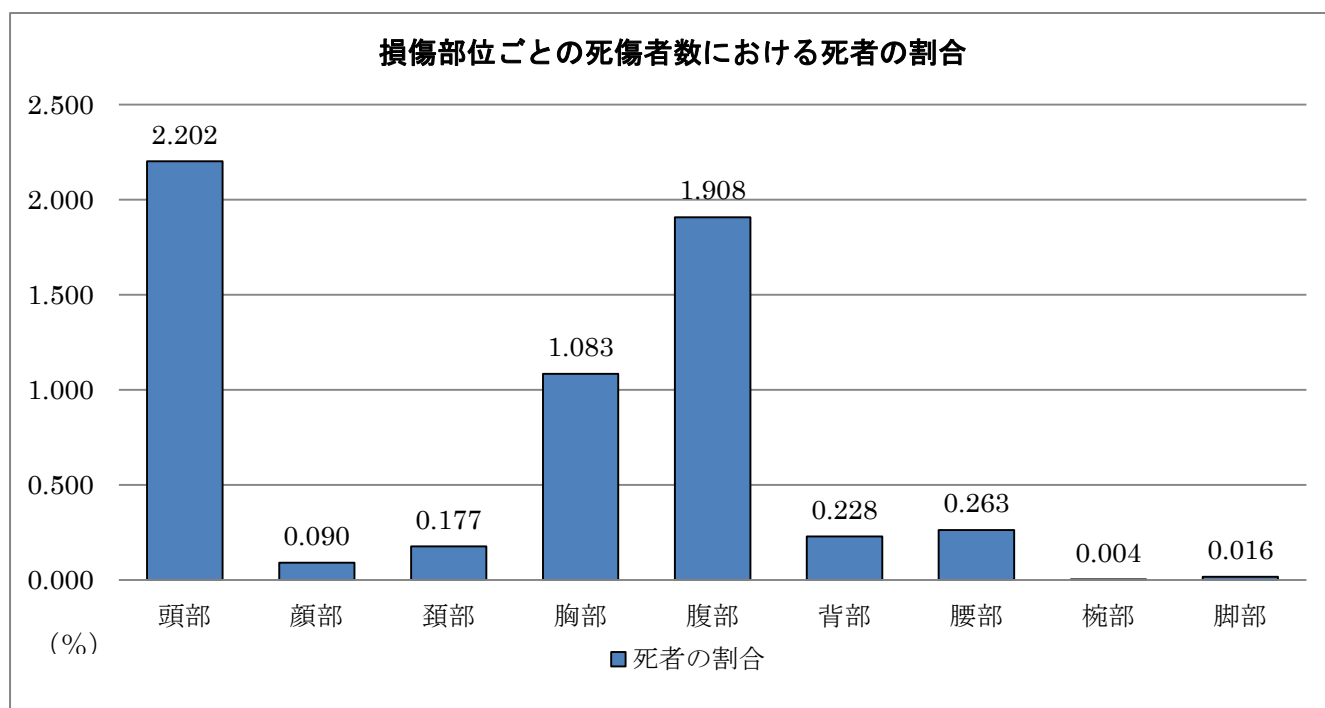
## 自転車用ヘルメット着用の必要性について

## 1. 自転車事故の死者における損傷部位について

自転車事故による損傷部位ごとの死者数を見ると、頭部への損傷を受けた方が最も多く、損傷部位ごとの死傷者数の合計における死者の割合（グラフ）を見ても、頭部への損傷が死に至り易いことが分かる。

## (1) 自転車乗用車の損傷主部位別の死者の割合（平成 21～23 年 全国）

	全損	頭部	顔部	頸部	胸部	腹部	背部	腰部	腕部	脚部	その他	合計
死者数	101	1,265	20	75	249	84	84	110	3	28	37	1,981
重傷者数	0	6,403	1,728	902	4,171	361	388	2,847	6,919	10,139	6	33,864
軽傷者数	0	49,782	20,377	41,346	18,562	3,958	3,542	38,880	77,594	161,627	164	415,832



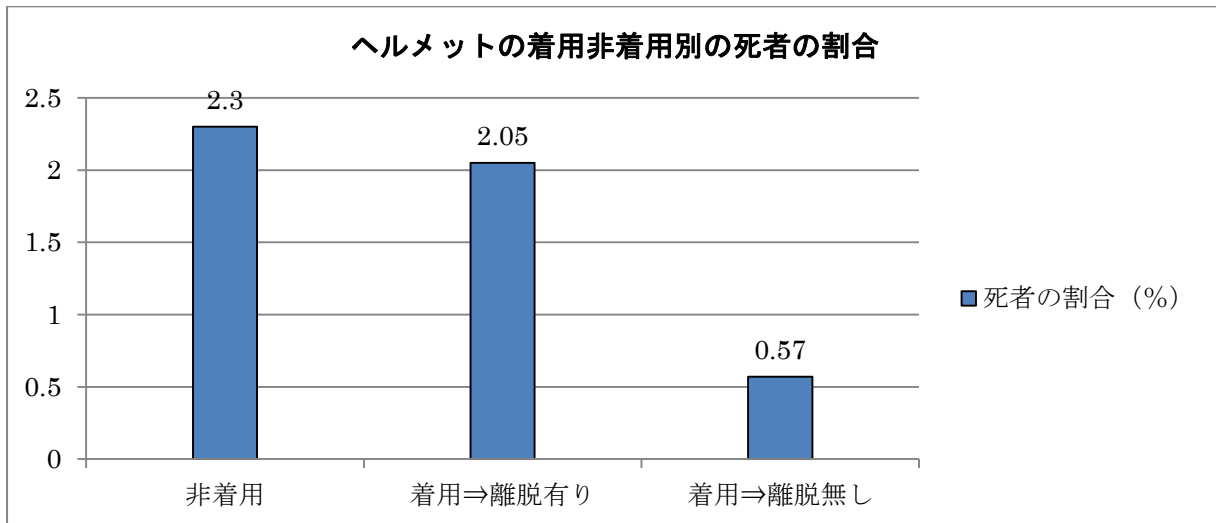
(出典：公益財団法人交通事故総合分析センター発行「イタルダインフォメーション交通事故分析レポート NO. 97」より)

## 2. 自転車事故による死傷者のヘルメットの着用状況について

自転車事故における頭部主損傷者のヘルメットの着用・非着用別に死傷者数を見ると、死傷者数合計における死者数の割合が、非着用者の2.3%に対し、着用⇒離脱無しは0.57%であり、着用していた場合、非着用の場合と比べて、1/4以下になっており、この割合からすると、非着用の死者のうち、もしヘルメットを着用していた場合の推定死者数は546人にまで減少することとなる。

### (1) 頭部主損傷者のヘルメット着用状況別死傷者数と推定死者数 (H19~H23 全国)

	非着用	着用⇒離脱有り	着用⇒離脱無し	合計
死者数(人)	2,181	22	27	2,230
死傷者数(人)	94,922	1,073	4,697	100,692
死者の割合 (%)	2.30	2.05	0.57	-
推定死者数(人)	546	6	27	579



(出典：公益財団法人交通事故総合分析センター発行「イタルダイインフォメーション交通事故分析レポート NO.97」より)

### (2) 宮城県内の自転車事故におけるヘルメット着用について (平成28年中)

宮城県内においては、平成28年中の自転車乗用中の事故による死傷者1,034人のうち、ヘルメットを着用していたのは53人で割合としては5.1%と極めて少ない。

また、ヘルメット非着用の死者及び重傷者127人において、ヘルメットを着用していれば負傷の程度を軽減できたであろう人は36人(28.3%)であるとされている。

	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者数計
ヘルメット着用	0	4	49	53
ヘルメット非着用	4	123	854	981
うち効果あり	4	32	116	152

(出典：宮城県警察本部作成 自転車の交通事故発生状況平成28年中より)